令和３・４年度　道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

道徳教育研究発表会

公開授業指導案

（本日の公開授業）

学年	主題名	教材名	授業者
２年１組	親切のよさ 【B-（６）親切、思いやり】	「かっぱわくわく」	教諭 南里　香奈
６年１組	自分が目指すところまで 【A－（５）希望と勇気、努力と強い意志】	「心をつなぐ音色 ～ピアニスト辻井伸行～」	教諭 卯津江康憲
９年１組	価値をめぐって 【B－（９）相互理解、寛容】	「しあわせ」	教諭 髙津依久真

第２学年１組　　道徳科学習指導案

日　時：令和４年10月14日(金) ５校時
児童数：20名
指導者：教諭　南里　香奈

１　主題名　　親切のよさ【B－（７）　親切、思いやり】

２　教材名　　「かっぱわくわく」　　（出典：東京書籍）

３　主題設定の理由

○ねらいとする価値について

低学年の児童は家族だけでなく、地域の人々、学校の人々、友達との関わりが次第に増える。発達の段階から自分中心の考えをすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。「親切」は、よりよい人間関係の基盤となるものである。相手の立場や気持ちに気付き、自分のこととして置き換えて考え、思いやりを持って接することが大切である。

そのために、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に目を向けて温かい心で接し、親切にすることの大切さ、よさに気づくことが必要である。相手の気持ちを考えて、優しく接し、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられる心情を育てたい。

○児童生徒の実態について

本学級の児童は、元気で明るい子が多く、進んで仕事や当番の仕事を積極的に取り組む児童が多い。また、困っている友達がいると優しく声をかけ、思いやりのある姿も見られる。その一方で、グループ活動では、自己中心的な行動が見られたり、自分の思いだけを主張したりして人間関係を構築することに課題がある子も少なくない。事前のアンケートでは、「困っている人がいたときに助ける」と回答した児童は80%、「困っている時に助けてもらった。」と回答した児童は95%で多い一方で、普段は友達を助けているように見受けられるが、無意識に行っていて助けていると自覚していない児童も数名いる。相手の立場や気持ちまで考えての行動は十分とは言えないことが伺える。

○教材について

元気と勇気が湧く「わくわく水」を頭の皿に入れて出かけたかっぱのかんすけたち。途中で、かんすけは困っていた子ぎつねや小鳥に「わくわく水」を分けてあげる。帰り道に迷い困ったかんすけたちは、小鳥や子ぎつねに助けられる。仲間のすっくとざんざも、相手に親切にすることの大切さに気づいて親切な行動ができるようになる。進んで人に優しく親切にすることで、自分が困ったときにその相手が自分に親切にしてくれるという教材である。かんすけの子ぎつねと小鳥との関わりと関連づけながら、すっくとざんざの気持ちの変化を役割演技をすることで、親切な行動は、された側だけでなく親切にした側も喜びが生まれることに気づき、困っている相手に対して助けようという心情を育むのに適した教材である。

○指導について

本授業では、事前にかっぱの知識をもつために、本や動画で知らせておく。そして、導入の段階では、これまで生活の中で、親切にされたこと、したこと、その時のことを考えて、「親切のバトン」とはどういうものか考えさせる。展開では、電子黒板で教材を提示して、児童が想像を広げながら話の世界に入っていけるようにする。あくしゅタイムでは、役割演技を取り入れながら、二人の気持ちの変化を自分事をとして考えさせるようにしたい。また、役割演技の立場の違いから、親切はする人もされる人も嬉しくなるという心の動きを多面的に捉えさせたい。親切はつながっていることに気づかせるとともに、終末では、地域の方の活動の中の親切を紹介し、自分達が守られている事を知り、同じように自分達も、親切をつないでいこうという気持ちを持たせたい。

他教科との関連では、学級活動や帰りの会の時間に家の人から教えてもらった親切にしたことやされたことをクラスで紹介する場を設けたり、「心の木」に書いて伝えたりして、親切な言動を認め合い、「親切のバトン」として実践に結びつけていく。

４　本時のねらい

○　すっくとざんざのかんすけに対する気持ちの変化を考えることを通して、親切な行動をすることのよさに気づき困っている相手に、進んで親切にしようとする心情を育てる。

５　学習指導過程

	学習活動	主な発問（◎、○）と 予想される反応（・）	指導上の留意点（○） 期待される児童生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1　学習課題について考えをもつ。	○困っている人を助けたことや困っている時に助けてもらったことがありますか。 ・はい　　・いいえ ○「親切のバトン」について考えていきましょう。	○事前アンケートの「困っている時に助けたことがあるか」「困っている時に助けてもらったことがあるか」の結果を電子黒板で掲示し、「親切のバトン」というキーワードでねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
	2　「かっぱわくわく」の話を聞いて話し合う。 (1)　わくわく水をあげている時のかんすけの気持ち	○かんすけは、なぜ迷子の子ぎつねやけがをした小鳥に「わくわく水」をあげたのでしょう。 ・元気になってほしい ・助けてあげたい。	○場面ごとの状況や人物の気持ちをつかみやすいように電子黒板で挿絵を提示し全文を範読する。 ○場面絵を使って子ぎつねや小鳥を助けたかんすけの親切心を押さえる。
	(2)　わくわく水をあげるかんすけを見ているすっくとざんざの気持ち	○すっくとざんざは、かんすけがわくわく水を分けている姿を見てどう思ったのでしょう。 ・早く遊びに行きたい。 ・ほうっておこう。 ・わくわく水がなくなるよ。	○児童と教師の役割演技を通して、かんすけの親切心に気付いていないすっくとざんざの気持ちに気付かせる。
	(3)　子ぎつねや小鳥が親切にした時の気持ち	○子ぎつねや小鳥はどんなことを思ってかんすけたちを助けたでしょう。 ・助けてくれたおかえしだよ。 ・助けてもらってうれしかったよ。 ・今度はぼくが助けるよ。	○かんすけのおかげで元気になった小ぎつねや小鳥の感謝の気持ちから親切にしたいという思いをつかませたい。
（あくしゅタイム）	(4)　かんすけにわくわく水をあげた時のすっくとざんざの気持ち	◎すっくとざんざはどんな思いで、かんすけにわくわく水を分けてあげたのでしょう。 ・かんすけが元気になるとうれしいよ。 ・今度は、ぼくたちが助けるよ。 ・かんすけのおかげでぼくたちは助かったよ。	○「だいじょうぶ。ぼくたちのわくわく水をあげるよ。」の一文を用いて、ペアで役割演技をさせる。 ○親切にする側とされる側の心の動きに気付かせ、全体の場で発表させる。 ○親切という行為が、親切にする側、親切にされる側の双方にとって嬉しい気持ちになり、親切な行動がつながっていくことに気付かせる。 ○「あくしゅタイム」の観点を示し、話し合いの活性化を図る。
／終末	3　自分の生活を振り返る。	○親切にすることを学習し、これから自分にできることはないか考えてみましょう。 ・困っている友達や家族に声をかけたい。 ・自分から助けていきたい。 ・親切をしている友達に気づいていきたい。	○「親切のバトン」につなげる。 ○自分の経験を思い出し、自分の生活につなげようという思いを育てたい。 親切にすることのよさや大切さに気付き、自分の生活につなげようと考えている。 （ワークシート・発表）
	4　教師の話を聞く。	○教師が見つけた「親切のバトン」を紹介します。	○地域の人の親切な行動を見つけ、学校や家族だけでなく、地域の人からも親切にされていることに気づかせ、電子黒板で「親切のバトン」として紹介し、価値を温める。

６　評価

○　親切のよさや大切さに気付き、これからの生活の中で困っている人に気付き親切にしようという心情をもつようにしている。（発表・ワークシート）

第６学年１組　　道徳科学習指導案

日　時：令和４年10月14日(金)５校時
児童数：32名
指導者：教諭　卯津江　康憲

１　主題名　なりたい自分に　【A－(５)希望と勇気、努力と強い意志】

２　教材名　「 心をつなぐ音色　～ピアニスト　辻井伸行 」(出典：東京書籍)

３　主題設定の理由

○　ねらいとする価値について

目標とは、なしとげたりたどりついたりするものである。目標には、生涯をかけて達成する遠大なものもあれば、身近で、日常的な努力によって達成できるものもある。

いずれの目標にせよ、目標を達成する過程には大小の困難が存在し、それらを克服するために必要なものが努力や強い意志だと言える。

誰もが途中で苦しくなったり、怠け心が起きたりするものである。しかし、それらの弱さを認め、打ち勝つ強い意志や努力は、自分の現状に甘んじず、現実をよりよくするために、また、人生をよりよく生きるために意義深い道徳的な価値だといえる。

○児童生徒の実態について

６年１組の児童は「過去、または現在、目標を立てて達成したことがあるか」の質問に対して、７割が「はい」と回答している。その児童はほとんどが短期的な目標を立てている。一方、３割が「いいえ」と回答している。その理由に「あきらめたり、面倒くさかったりするから」、「長く努力することができないから」、「やりたいことがないから」と答えている。このことから、目標を達成したいが努力や強い意志が十分でない、または長い見通しをもって努力を続けることに課題がある。そのため、希望と勇気、努力と強い意志という道徳的価値を学ぶことは本学級の児童にとって意義深いと言える。

○教材について

ピアニスト辻井伸行氏をとりあつかった資料である。内容は母親を喜ばせるためにピアノを始めた少年が才能を開花させ、一度は国際コンクールで落選しながらも、最終的には強い意志と継続した努力によって国際コンクールで優勝し、目標を達成するというストーリーである。授業では、本教材に含まれる道徳的価値である「希望と勇気、努力と強い意志」との関りで前段と後段に分けて取り扱う。前段が、５才の主人公がピアノを演奏し、称賛されることで夢を見つける場面、後段が 17 歳の主人公が国際コンクールにむけて努力するが思うようにならず、ピアノの先生から「あきらめよう」と告げられる場面である。夢をもち、努力を重ねる主人公の姿を描いた教材は本時で取り扱う道徳的価値を学ぶために適したものである。

○指導について

ねらいは、目標がもてなかったり、途中であきらめてしまったりする本学級の児童の課題に基づき、主人公のピアノに取り組む気持ちの推移を考えることを通して、なりたい自分を目指してがんばる事の大切さに気付かせ、目標に向かって努力し達成しようとする心情を養うことである。主人公と児童自身を重ねることができるように、導入では事前に行ったアンケートの結果を紹介する。展開では、主人公の①幼児期にピアノへ取り組む気持ちと②国際コンクール優勝へ向けてピアノに取り組む気持ちの２つを対比させる。ピアノの先生から「あきらめよう」と言われた時の主人公の気持ちを中心発問として問うことで、他者理解、価値理解を目指す。終末では「努力と強い意志」に関わる格言を紹介し、価値を温める。

4　本時のねらい

○　主人公のピアノに取り組む気持ちの推移を考えることを通して、なりたい自分を目指してがんばることの大切さに気付き、目標をもって努力しようとする心情を養う。

5　学習指導過程

	学習活動	主な発問（◎、○）と 予想される反応（・）	指導上の留意点(○) 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1 自分の目標や達成状況について振り返る。 2 主人公のピアノ演奏の動画を見る。 3 教材「心をつなぐ音色」を読み話し合う。 (1) 主人公のピアノに取り組む気持ちを考える。	○目標に向かって頑張っていることがあるか？ないのはなぜですか？ ・ある。国語の勉強。サッカー。 ・ない。めんどうくさい。あきらめてしまう。 ○のぶ君はどんな気持ちでピアノを弾いていたでしょう？ ①　旅行でピアノをひく５才ののぶ君 ・ピアノをひくことが楽しい。 ・ほめてもらってうれしい。 ②国際コンクールにむけてピアノをひく 17 才ののぶ君 ・練習がつらい。 ・優勝のために努力は大切。	○今までの自分を振り返り、がんばったことは何か、がんばれなかった理由について押さえておく。 ○辻井伸行さんの演奏に感動させたい。 ○教材全部を範読する。 ○ピアノをひく喜びに気づいた主人公に共感させたい。 ・表情マークをかかせる。 ・児童自身のことを想起させながら考えさせたい。 ○好きなピアノでも大きな目標の達成のためには苦しみがあることに共感させたい。 ・２つの場面の気持ちを比較し、同じ点と違う点に気づかせる。
あくしゅタイム	(2) 目標にむかって努力することの意義について考える。	◎ピアノの先生が「もうだめだね。あきらめよう」と言った時、のぶ君はどんな気持ちになっただろう？ ・私はピアノをひくことをやめない。理由は、少しでもよい演奏ができる準備をしたいから。 ・私はピアノをひくことをやめない。理由は、観客にすばらしい演奏を聴かせたいから。	○ペアで役割演技をした後、自由に交流する。 ・吹き出しを用意して、考えを書かせる。 ・代表者に全体で発表させる。 自分の経験、教材を通した価値理解を基に自分の意見を作り、他者の意見と比べることで、さらに価値理解を深めている。
／終末	4 のぶ君から学んだことを自分のことを振り返りながら考える。 5 格言を読み味わう。	○今日の学習でのぶ君から学んだことを書きましょう。 ・目標にむかってがんばることの大切さが分かったので自分も頑張る。 ○今日の学習と関係の深い格言は何でしょう？	○今までの自分や、学習したこと、これからの自分に生かしたいことについても考えさせる。 ○「努力に勝る天才はなし」の格言を押さえ、価値を温めさせたい。

6　評価

○　自分の経験、教材を通した価値理解を基に自分の意見を作り、他者の意見と比べることで、さらに価値理解を深めている。

第９学年１組　　道徳科学習指導案

日　時：令和４年10月14日(金) ５校時
生徒数：28名
指導者：教諭　髙津　依久真

１　**主題名**　　価値をめぐって　　【B－(9)　相互理解、寛容 】

２　**教材名**　　「しあわせ」(出典：東京書籍)

３　**主題設定の理由**

○　ねらいとする価値について

相互理解は、互いの考えや意見を相手に伝え合うとともに、それぞれの個性や立場を尊重することが大切である。時には、利害が衝突してしまい、自分の意見や考えを伝えることに困難が生じたり、相手の意見を受け入れられない場面が生じたりする。それでも、自分自身も他者も、それぞれのものの見方にとらわれやすいことを理解することで、自分と異なる立場や考え方を尊重できる。

また、自分のものの見方や考え方を広げていくためには、他者から謙虚に学ぶ姿勢が必要となってくる。他者の考えを認め、良い面を積極的に受け入れる寛容の心を育てたい。

○児童生徒の実態について

本学級は、互いの個性を理解し、その考えを尊重しようとする生徒は多い。しかしそれは、ほとんどが１年生からの付き合いであり、単一学級ならではの関係性である。変わらない人間関係の中で、この人はこうだと決めつけていたり、自分の考えを相手に伝えなかったりといった姿も見られる。このように、相手の立場を考えずに認め合えない関係性もある。

友達と意見が食い違った際に、相手に合わせるだけでなく、きちんと自分の意見を伝え、相手を深く理解するために、相手の個性や立場などを考え、認めていくことを考える必要がある。

○教材について

本教材では物語の中で、幸せを感じるものは何かということを考える。主人公のタマゴマンは、自分の苦手なマーボ豆腐を「一番好きだ。」と語るクラスメイトの言葉に驚かされる。その会話を聞いていた先生から、「クラスのみんなが幸せになるにはどうしたらいいか。」と投げかけられる。「みんなが幸せというのは無理だ。」、「おたがいに分け合えば良い。」、「食べ物では幸せを感じない。」など様々な意見を聞き、タマゴマンはこんな小さな話題でも一人一人の考え方が違うことを知る。最後に先生が「考え方のちがいを知ることがスタートです。」と語るところから、相互理解と、その先にある認め合い、寛容の心に気付かせる教材である。

○指導について

指導にあたっては、導入で事前アンケートを紹介し、それぞれ個人がものの見方や考えに違いがあることを確認させる。展開では教科書の登場人物たちも同じように、一つのことについて様々な考えがあり、批判的に受け止めるのではなく、共感的に受け止めることで、相手への理解が進むことに気付かせたい。「あくしゅタイム」では、自分自身と他者の立場の違いなどを考えさせたい。中心発問として、文中に「みんなの考え方のちがいを知ることが、全体のしあわせを考えるスタートです。」という言葉があることから、相互理解の次に目指すものはどこであるのか問うことで、相手を理解し、尊重しようとすることが大切であることを押さえたい。

4　本時のねらい

○　それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を育てる。

5　学習指導過程

	学習活動	主な発問（◎、○）と 予想される反応（・）	指導上の留意点(○) 期待される児童生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1　価値のちがいについて知る。	○自身が「しあわせ」を感じる瞬間はどんなときですか。（事前アンケート） ・趣味の時間 ・お出かけをするとき	○それぞれ感じる幸せが、個人で違うことを確認する。 ○事前の家読と朝の時間をつかい、教材を事前に読んでおく。
	2　登場人物の気持ちを考える。	○給食がマーボ豆腐であることを知った登場人物の気持ちを考えよう。 ・タマゴマン…最悪、イヤ ・アナゴマン…幸せ、一番好き ・ダンゴマン…きらいじゃないよ	○アナゴマンに対する否定的な考えと共感的な考え方の両方を考えさせることで、正反対の見方、考え方に対して受け入れる意識が大切なことに気付けるようにする。
あくしゅタイム	4　自分の考えと、一人一人の意見の違いに気付く。	○修学旅行で自主研修があっていたら…昼ご飯は何にしますか。班で話し合いをしてみよう。	○生活班で話し合い、決定した昼食とそれぞれが最初に提案したものをホワイトボードに記入する。 ○相手と考え方が違った場合、自分の意見を通そうとしたのか、相手に合わせたか、問いかけて中心発問につなげる。
	5　違いを知り、その先を考える。	◎お互いの違いがある中で、意見を交わすときに、どのようなことや気持ちが必要なのだろうか。 ・いろいろな考えを認める。 ・納得できるまで詳しく話を聞く。 ・互いの考えを尊重する。	○様々な見方、考え方を知ることの先には、他者への理解、寛容の心があることを学び、違いがあることやそのよさを見つけようとすることが大切であることを考えさせたい。
／終末	6　本時の学習を振り返る。	○今日の道徳の感想を書きましょう。	○保護者アンケートを紹介する。 「お子さんが友人と意見が食い違い、トラブルになったとき、どのようなアドバイスをされますか」 一人一人の感じ方の違いに気づき、相互理解を深めようとしている。（ワークシート・発言）

6　評価

○　それぞれの幸せや考え方の違いを知り、友達と意見の交流などを通して、他者を理解することの大切さや、相手を尊重することを考えている。（発言・観察）

令和３～４年

道徳科授業実践

（令和４年度）

学年	主題名	教材名	授業者
９年１組	将来の自分を見つめて 【C－（１３）勤労】	「好きな仕事か安定かなやんでいる」	教諭 末次由美子

（令和３年度）

学年	主題名	教材名	授業者
１年１組	やさしいこころでいきものをそだてよう 【D－（１８）自然愛護】	「ぼくのあさがお」	教諭 森下　義仁
２年１組	ありがとうの気持ちを 【B－（８）感謝】	「じぶんがしんごうきに」	教諭 五十嵐　守
４年１組	誰に対しても公平に 【C－（１２）公正、公平、社会正義】	「となりのせき」	教諭 溝上　順平
５年１組	郷土を愛する 【C－（１７）伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】	「親から子へ、そして孫へと」	教諭 江口　洋平
９年１組	いのちを考える 【D－（１９）生命の尊さ】	「生まれてきてくれて、ありがとう―助産師からのメッセージ―」	教諭 御厨　亮佑

第９学年　　道徳科学習指導案

令和　４年　７月　１３日
児童・生徒数　　２８名
指導者　　末次　由美子

１　主題名　将来の自分を見つめて　　【Ｃ－（１３　）勤労】

２　教材名　「好きな仕事か安定かなやんでいる」（出典：東京書籍）

３　主題設定の理由

○　ねらいとする価値について

社会には、多くの職業があり、働くことを通して、社会全体を支えている。そのため勤労は、社会生活を成立させるために重要なものである。私たち一人一人がその尊さや意義を理解し、自分の生き方について考えを深めながら、社会生活の向上に貢献することが求められている。勤労は、収入を得るため（経済性）だけでなく、社会を支えるため（社会性）や、自分の能力や個性を生かすため（個人性）といった側面がある。人は働くことを通じて、生きがいや社会とのつながりを感じることができる。さらに充実した生き方を追求し、実現することが、一人一人の幸せにつながっている。

○児童生徒の実態について

本学級は、互いの個性を理解し、その考えを尊重しようとする生徒が多い。体育大会や西渓会の活動では、リーダーシップを発揮し、自分の役目をしっかりと果そうとする姿が見られた。

これまでに、高校について自分で調べたり、高校説明会を受けたりして、進路選択について具体的に考えるようになってきた。

事前アンケートでは、「何を優先して仕事を選ぶか」と質問したところ、「やりがい」、「給料のよさ」、「仕事の楽しさ」等、価値観が多様化していた。働くことに対して前向きに捉えている生徒が多い一方で、将来の夢が描けずにいる生徒も少なくなかった。

○教材について

本教材では、ある大学生が書いた「好きな仕事か安定かなやんでいる」という新聞の投書と、それに対する立場の異なる４者の意見で構成されている。投書した大学生は、本当にやりたいと思える仕事を選ぶか、安定した収入をもらえる仕事を選ぶか悩んでいる。この悩みは、進路を考える時期にさしかかった９年生の生徒にとっても、切実な課題であると言える。投書に対する４者の意見は、「やりたい仕事をする」、「経済的な自立をする」、「自分に合った仕事をする」、「仕事と趣味を別にする」と主張していて、対立しているように見える。しかし、これらを比較していくことで、自分の個性や能力を生かすことも、経済的に自立にすることも、進路を考える際にはどれも大事にすべき考えであることに気付かせる教材である。

○指導について

導入では、仕事を選ぶ際に、どんなことを優先させたいのか事前アンケートを全体で共有する。その上で、好きな仕事か安定か悩んでいる大学生と４者の意見を聞き、自分がどのようなところに共感できたかを考えさせる。同じ立場の人や違う立場の人と「あくしゅタイム」を行い、勤労について多面的に捉えられるようにしたい。「あくしゅタイム」の後半では、保護者の方からも仕事に対するアンケートを実施し、仕事に対する思いや仕事のやりがい等について生徒に紹介することで、働くことについて、より実感を伴って考えられるようにする。終末では、多久市出身の画家、池田学さんから９年生へのメッセージを紹介したい。「見る人のことを思いながら絵を描くこと」や、「人を感動させるために手を抜かず、最後までまじめにやること」を大事にされる生き方に触れ、充実した生き方を求めていくことの価値を温めさせたい。

４　本時のねらい

職業を選択に関する４者の意見について話し合うことを通して、職業を選択する上で大事にすべきことを理解し、充実した生き方を追求しようとする心情を育てる。

５　学習指導過程

	学習活動	主な発問（○）と予想される反応（・）	指導上の留意点 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	１　仕事を選ぶ際に、自分や友達がどんなことを優先したいか現状を把握する。	○仕事を選ぶとき、どのようなことを優先して考えますか。 ・やりがいのある仕事がしたい。 ・給料のよさも大事じゃないか。	・事前アンケートの結果を共有しながら、職業選択についての率直な考えを出させる。
	２　教材「将来の自分を見つめて」を読み、話し合う。	○大学生の投書と、それに対する４人の意見を読みましょう。	・共感できる意見を見つけながら４者の意見を読むように促す。
	（1）４者の意見で一番、共感できるものについて話し合う。	○４人の考えの中で、一番共感したのはどの考えですか。 ・A…やりたい仕事をする ・B…経済的な自立をする ・C…自分に合った仕事をする ・D…趣味と仕事を別にする	・４者の意見の中から、同じ場所にネームプレートを置いている人と意見を交流させる。 ・違う立場の人と交流し、意見が変わった生徒には、ネームプレートを動かすようにさせる。
	（2）違う立場の人と意見を交流する。		
あくしゅタイム	（3）仕事を選択する際に大切なことは何かを考える。	◎あなたが仕事を選ぶときに、大切にしたいことは何ですか。 ・自分が楽しいと思える仕事や頑張れそうな仕事を探したい。 ・安定した収入を得て、安心して家族と暮らしたい。 ・自分のやりたい仕事をする上でも、周りの人の役に立ちたい。	・生徒の考えを交流した後に、保護者の方からのアンケートを紹介する。 ・仕事を通して収入を得たり、生きがいをもったり、社会に貢献したりすることが、「働く喜び」につながることに気付かせる。 自分のやりたいことや収入だけではなく、周りの人の役にたつことも、仕事のやりがいにつながると思った。
／終末	３　学習をふりかえり、生活の中でどのように生かしていきたいか考える。	○この学習で考えたことや感じたこと、これからの生活で生かしたいことを書きましょう。 ・進路について真剣に考えたい。 ・仕事に必要な知識を身に付けたい。	・立場の違う人の意見や保護者の方の考えを聞いて、考えさせられたことについて書かせたい。さらに、これからの自分に生かしたいことについても考えさせる。
	４　画家の池田学さんからのメッセージを読み、味わう。	○多久市出身の画家、池田学さんの言葉を紹介します。	・仕事に対して前向きな気持ちになれるように紹介する。

６　評価

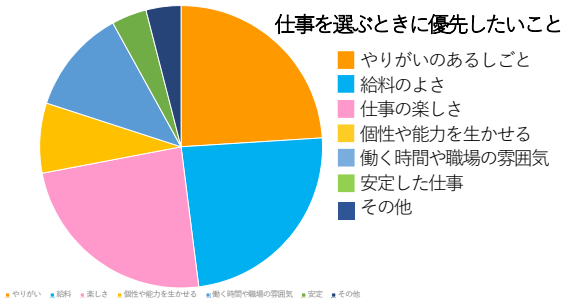
将来の生き方について、自分が大事にしたいことは何かを考え、よりよい職業選択をしようとする意欲を持つことができたか。（発言・ワークシート）

7　実際の授業

（1）本時のねらい、主題についてとその理由

本時では、事前に生徒へのアンケートを行った。進路選択について前向きに考える生徒が多い一方で、「やりたいことがない」という生徒も少なくないことが分かった。

そこで、仕事について多角的に捉えられるように、ネームプレートを用いて、立場の違う人との意見交流を多く取り入れた。「あくしゅタイム」では、「でも…も考えられない？」と、あえて反対の立場から意見を返すことで、意見の相違点が明確になった。



資料①：生徒への事前アンケート【導入】

（2）本時の学習指導過程について

「勤労」を身近に感じられるように、保護者の方にアンケートをとった。アンケートには、「自分に合っているものを」、「好きなことが仕事につながった」、「人の役に立てるように」などの意見が寄せらせた。（資料②）

また、働くことのやりがいについて紹介することで、生徒の意見に次のような変化が見られた。（資料③）

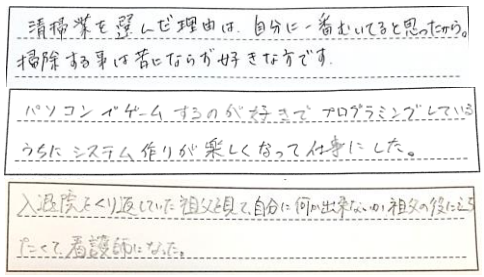
「今までは、お金をもらえたらいいなと思っていたけど、母を見て、人に感謝される仕事っていいなと思いました。」

「私は将来の夢があやふやで、どうしようか悩んでいたけれど、働く母はいつも楽しそうで家でも患者さんの話をしているのを見て、自分が今こうだったらいいなという仕事をしたいと考えました。」

生徒たちが、保護者アンケートから家族の姿を想起し、「勤労」への価値の理解を深めていると考えた。

しかしながら、生徒のふり返りを十分に取り上げることができなかったため、授業の後に「道徳だより」として紹介した。

保護者が仕事を選ばれた理由

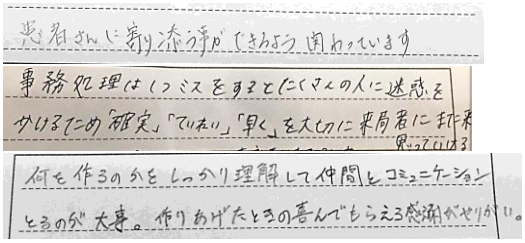

清掃業を選んだ理由は、自分に一番むいてると思ったから。
掃除する事は苦にならず好きな方です。

パソコンでゲームするのが好きで プログラミングしているうちにシステム作りが楽しくなって仕事にした。

入退院をくり返していた祖父と見て、自分に何も出来ないと祖父の後にならたくて看護師になった。

資料②：本時で紹介した保護者アンケート【展開】

仕事をする中で、大切にされていること


患者さんに寄り添う事ができるよう関わっています

事務処理はしっミスをするとたくさんの人に迷惑をかけるため「確実」「ていねい」「早く」を大切に来局者に対応

何を作るのかをしっかり理解して仲間とコミュニケーションとるのが大事。作りあげたときの喜んでもらえる感謝がやりがい。

資料③：本時で紹介した保護者アンケート【展開】

（3）その他の教育活動との関わり

地域出身の画家である池田学さんから 9 年生へのメッセージをもらい、終末で紹介した。メッセージでは、「どんな職業であっても勤勉に働くことが大切だ」と書かれていて、「勤労」に対する価値を高めることにつながった。　池田学さんについて、美術の時間にも触れておくことで、より効果的であったと考える。

多久市出身
池田学さん

好きな事を続けていき、画家という職業につながりました。収入を得るためには、見る人の気もちを想像して、客観的に考えることも大切です。そして何より、人を感動させるために、手を抜かず、最後まできっちりと完成させること！どんな職業でも、まじめにやるというのは、一番大事だと思います。

資料④：地域の画家の方からのメッセージ【終末】

第　1　学年　　道徳学習指導案

令　和　3年　7月14日
児 童 数　　20名
指 導 者　　森下　義仁

1　主題名　やさしい　こころで　いきものを　そだてよう【　D　－(18)　自然愛護　】

2　資料名　「ぼくの　あさがお」(出典：　「あたらしいどうとく」東京書籍)

3　主題設定の理由

○　ねらいとする価値について

本主題は、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の指導事項「(18) 自然愛護」に関わる。

児童は生活科や特別活動の学習を通して、動植物に親しむ経験をしている。そのような活動や体験を通して、自然に親しみ動植物に優しく接しようという心情を育てることが求められる。自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることのいとおしさなどを自然や動植物と触れ合うことを通して、実際に感じることによって、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちを強く育みたい。

○児童生徒の実態について

本学級の児童は、生活科や特別活動の学習を通して、動植物に親しむ経験をしている。

生活科の生き物の観察では、生き物の生態に興味を持ち、熱心に観察をしている。また、毎朝あさがおの成長を楽しみにしながら水やりに取り組むことができている。　日常の児童の会話からも生き物を見つけた話や自然を愛でるような発言を聞くことが多い。しかし、生命に対する知識の習得や理解は未熟である。そこで、身近な自然に関心を寄せることによって、よりやさしい気持ちをもって動植物のお世話をしようとする心情を育み、生命や身近な自然に対する理解を深めさせたい。

○資料について

本教材は、「ぼく」があさがおの水やりをわすれたことによって、あさがおがしおれてしまい、枯れるのではないかと心配する場面から始まる。元気のないあさがおを見たときの「ぼく」の気持ちや、あさがおに対して「ごめんね。」と何回も言いながら水やりをする「ぼく」の気持ちなど、児童にとって心情を想像しやすい内容だと言える。水やりの結果、あさがおが元気になりつぼみを付けるという内容であり、植物への愛おしさや、植物がたくましく生き返った生命力や不思議さを感じ取ることができる教材である。

○指導について

本時のねらいを「身近な生き物への関心を高め、優しい心で生きものを育てようという心情を育む」と位置付ける。

導入では、児童が書いたあさがおの観察カードを見せ、生活科であさがおを育てていることを想起させる。しおれたあさがおの場面では、あさがおへの心配や不安、後ろめたさなどを引き出したい。中心発問では、「ぼく」があさがおに対して「ごめんね。」と何回も言いながら水やりをする場面を取り上げ、植物も生きているということへの理解へつなげたい。

振り返りでは、これからあさがおの世話でどんなことに気を付けるか、どんな気持ちで取り組むかということを書かせ、交流をさせる。交流後、数名の児童に発表をさせ、学級全体で前向きな気持ちであさがおのお世話をしていくという雰囲気を感じさせたい。

4　本時のねらい

身近な生き物への関心を高め、優しい心で動植物のお世話をしようという心情を育てる。

5学習指導過程

	学習活動	主な発問（○）と 予想される反応（・）	指導上の留意点 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／	1　あさがおの写真を見て、これまでのあさがおとの関わりを想起する。	○どんなことを思いながら種をまいたかな。 ・大きくなってね。 ・ちゃんと咲くかな。 ・早く咲いてね。 ・水やり頑張るぞ。	・教師が育てているあさがおの写真を見せ、これまでの経験を想起させる。 ・どんなきもちで種まきをしたか交流させる。
展開あくしゅタイム	2　しおれたあさがおをみた「ぼく」の気持ちを考える。	○しおれたあさがおを見て「ぼく」はどう思っただろう。 ・どうしよう ・枯れちゃうのかな。 ・ごめんね。	・しおれたあさがおの画像を掲示することで、視覚的に訴え、「ぼく」の気持ちを想像しやすいようにする。 ・このときの気持ちを表情図に表現させる。
	3　あさがおに対して「ごめんね。」と何回も言いながら水やりをする「ぼく」の気持ちを考える。	◎「ぼく」はどんなことを考えて、何回も朝顔に「ごめんね。」と言ったんだろう。 ・枯れちゃったらどうしよう。 ・あんなに元気だったのに。 ・早く元気になって。 ・もう水やり忘れないよ。	・「ぼく」の「ごめんね。」という言葉から、あさがおに対して申し訳ないという気持ちや何とか元気を取り戻してほしいという気持ちを深められるようにする。 植物も自分たちと同じように生きているということに気付いている。
	4　小さなつぼみをさわったときの「ぼく」の気持ちを考える。（交流）	○小さなつぼみをさわったとき、「ぼく」はどう思っただろう。 ・生き返ってよかった。 ・もう水やり忘れないよ。 ・元気になってくれてありがとう。 ・どんな花がさくのかな。	・このときの気持ちを表情図に表現させる。 ・児童のつぶやきなどを取り上げながら、植物への愛おしさや、枯れそうだった植物がたくましく生き返った生命力や不思議さを感じ取れるようにする。
／終末	5　振り返り（交流）	○これから、どんな気持ちで花や生きものの世話をしますか。 ・毎日、水やりをする。 ・優しい気持ちで世話する。 ・大事に育てる。	動植物にも生命があり、心を込めて世話をしようということを記述している。
	6　観察カードを見る	○みんなが書いた観察カードを紹介します。	・児童が書いた観察カードを紹介し、価値を温めさせたい。

6　評価　動植物にも生命があり、心を込めて世話をすることが大切であるということを感じ取っているかどうか。（発言・行動観察・ワークシート）

授業者　森下義仁　内容項目【D‐（18）自然愛護】教材名「ぼくの　あさがお」

1　本時のねらい、主題についてとその理由

日常の児童の会話からも生き物を見つけた話や自然を愛でるような発言を聞くことが多い。しかし、生命に対する知識の習得や理解は未熟である。そこで、本時のねらいを、「身近な生き物への関心を高め、優しい心で動植物のお世話を使用という心情を育てる」とした。

主題は「優しい心で生きものを育てよう」と設定した。あさがおが題材となっているため、生活科の学習で全ての児童があさがおの世話を経験しており、登場人物の境遇に、自分を重ね合わせたり、心情を想像したりすることができると考えた。自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることのいとおしさなどを自然や動植物と触れ合うことを通して、実際に感じることによって、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちを強く育みたい。

2　本時の学習指導過程について（導入、展開、終末の工夫、特にあくしゅタイムについて）

導入では、児童が書いたあさがおの観察カードを見せ、生活科であさがおを育てていることを想起させた。しおれたあさがおの場面では、あさがおへの心配や不安、後ろめたさなどの気持ちを引き出した。中心発問では、「ぼく」があさがおに対して「ごめんね。」と何回も言いながら水やりをする場面を取り上げ、植物も生きているということへの理解へつなげることをねらった。実際に児童からは「あさがおも水が欲しい」「のどが渇くから僕たちと似てる」などの発言があった。まだ文章表現が難しい時期であったため、児童の思考を表現するツールとして表情図を用いたことは効果的であった。

あくしゅタイムでは、表情図を見せ合うことでスムーズに交流ができ、お互いの考えを伝え合うことができていた。

振り返りでは、これからどんな気持ちで花や生き物の世話に取り組むかということを書かせた。「大きくなってね」や「元気に育ってね」というメッセージを書いた児童や「優しい気持ちで」や「思いやりを持つ」などの心情を書いた児童、「水やりを頑張る」「ご飯をちゃんとあげる」などの行動面でのことを書いた児童がいた。

終末では、児童がこれまでに生活科のあさがおの観察で書いてきた観察カードを紹介することで、他教科との関連や心情面や行動面との結びつきを図った。

3　その他の教育活動との関わり

他教科との関連では、生活科の「きれいにさいてね」において、世話をしているあさがおが題材となっているため、夏休み期間中も朝顔の世話を続けていくという実践への意欲を高めていくこととした。授業後、朝の時間や休み時間などに朝顔の水やりをする姿がこれまでよりも多く見られるようになった。

第２学年　　道徳科学習指導案

令和３年１１月１９日
児童数　　２８名
指導者　　五十嵐　守

１　**主題名**　　ありがとうの気持ちを【B－(８)　感謝　】

２　**教材名**　　「じぶんがしんごうきに」（出典：東京書籍）

３　**主題設定の理由**

○ねらいとする価値について

よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互の尊敬と感謝の念が生まれてくる。そして、それは、日々の生活、あるいは自分が存在することに対する感謝へと広がる。感謝の気持ちは、人が自分のためにしてくれる事柄に気付くこと、それはどのような思いでしてくれているのかを知ることで芽生え、育まれる。

○児童生徒の実態について

このクラスの児童に「ありがとうの気持ちを伝えたい人はいますか？」というアンケートを実施したところ、66%は「いる」と回答し、17%が「いない」残りの 17%が「わからない」と回答している。また、「いる」と回答した児童の内、友達の名前を回答した児童が最も多く、次に家族の名前を回答した児童が多かった。このことからクラスの半数以上の児童は感謝する対象を見出していることがわかる。本時では、より感謝の気持ちを明確にもてるように指導していきたい。残りの児童については感謝する対象を見出せるように指導していきたい。

○教材について

本教材では、目の前で小さな女の子がトラックにはねられるのを見て以来、毎朝交差点を渡る子どもたちを守るため交通整理をする「おじさん」の話である。おじさんは、周囲から心ない言葉があったにも関わらず、一日も休まずに交通整理を続けてきた。その行動は「子供たちを事故から守りたい。そのためにできることをしていきたい。」という強い願いからくるものである。おじさんの行動と思いに周囲の大人や子どもたちが気づいていき、感謝の気持ちをもつようになっていく。

児童が、この教材を通して日常生活の中で多くの人々に支えられ助けられていることに気づき、感謝の気持ちを育むことを期待したい。

○指導について

本授業では、子どもたちが周囲の人に支えられながら生きていることに気づき、感謝の気持ちをもてるようにしたい。授業の前半では周囲から心ない言葉をかけられても、交通整理を続けるおじさんの心の内には、「子どもたちのために」という強い思いがあることに気づくことができるようにする。その上で、「あくしゅタイム」では、全体での意見交流を通して、子どもたちのおじさんに対する感謝の気持ちを豊かに想像できるようにしたい。授業の後半では日常生活を振り返ることを通して、自分のことを支えてくれる人の思いを感じ、感謝の気持ちを表現できるようにしたい。

４　本時のねらい

物語の登場人物の気持ちを考えていくことを通して、人が人を大切にする思いを感じ、他者が自分を大切に思い、支えてくれていることを感謝する心情を育む。

５　学習指導過程

	学習活動	主な発問（○）と 予想される反応（・）	指導上の留意点 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1　お世話になっている人を想起する。	○　お世話になっている人は誰ですか？ ・お母さん　・お父さん	・お世話になっている人を想起し、感謝の気もちへつなげる。
	2　事故を見て交通整理を始めるおじさんの気持ちを考える。	○　おじさんはどうして自分が信号機になろうと決めたのですか？ ・もう二度と子どもがつらい思いをしてほしくない。 ・子供のために何かしたい。	・子どものために動いたおじさんの気持ちをおさえ、その気持ちが目で見てわかりその後の話の流れがつかめるように板書をする。
	3　雨が降っても、「もの好きな人」と言われても続けるおじさんの大変さと前向きな気持ちを考える。	○　おじさんはどんな気持ちで交通整理を続けていたでしょう。 ・そんなこと言われてかなしい。 ・雨の日はつらい。 ・子供のためにできることをするだけ。	・毎日続けることの大変さや人に認められないつらさ、それでも続けようとする前向きな気持ちを整理して板書する。子どもたちのために続けたいというおじさんのつよい思いをおさえる。
あくしゅタイム	4　おじさんに挨拶をする子供の気持ちをより具体的に考える。	◎　おじさんの姿を毎日見ていた子供たちは、どんな気持ちだったでしょうか。 ・毎日立ってくれていた。大変なはず、ありがとう。 ・事故に巻き込まれず、学校に行けるのはおじさんのおかげ。 ・心配してくれてありがとう。	・おじさんに心の声を伝える場をつくる。感謝の気持ちの真意が明確になる形で板書していき、それぞれの意見の違いと同じところを示しながら意見交流できるようにする。その後、ワークシートに自分の考えを記入し、友達同士の意見を伝え合う活動を行う。いろいろな意見を聞き、自分の身近な人への感謝の気持ちをもつことへ繋がるようにしたい。
／終末	5　自分のことを大切に思い支えてくれている存在に気づき、その内容を具体的に認識し感謝の気持ちをもつ。	○　あなたが「ありがとう」と伝えたい人は誰ですか？ ・お母さん、朝ご飯ありがとう。元気でいてほしいって思ってくれているよね。おかげで、外で楽しく遊べているよ。	・授業を通しておじさんの子どもたちを大切に思う気持ちを理解している状態で、「ありがとうと言いたい人」を見出せることは、その人が自分を大切に思ってくれていることを実感できているということである。 さらに、自分が支えられていること、支えてくれている人の思いを具体的に認識することで感謝の気持ちをより明確に豊かにもつことが出来るようにする。
	6　日ごろお世話になっている人の思いを知る。	○　地域で交通整理を行っている方からのメッセージを紹介する。	・実際に人の思いを知り、感謝の気持ちが芽生えることを期待する。

６　評価

自分のことをお世話してくれる人の思いを感じ取り、感謝の気持ちをもち、表現することができる。（発言・ワークシート）

授業者　五十嵐　守　内容項目【B－（８）　感謝　】教材名「じぶんがしんごうきに」

１　本時のねらい、主題についてとその理由

本時のねらいを「物語の登場人物の気持ちを考えていくことを通して、人が人を大切にする思いを感じ、他者が自分を大切に思い、支えてくれていることを感謝する心情を育む。」としている。主題を「ありがとうの気持ちを」【B－（８）　感謝　】としている。

子どもたちは学校、家庭、社会の中で他者に支えられ生活している。しかし、改めて自分が支えられていることに気がつけていない児童も多い。その為、本授業を通して、自分が支えられていることを自覚し、それをきっかけとして感謝の気持ちを持つことをねらいとしている。

２　本時の学習指導過程について（導入、展開、終末の工夫、特に、あくしゅタイムについて）

導入時には、普段お世話になっている人たちを想起させることにより終盤で実生活を振り返ることに繋げることをねらいとした。本教材では、主人公をおじさんに設定してある。指導要領解説には「家族など日頃世話になっている人々に感謝すること」とあるため、身近な人達が毎日、自分たちの世話をしてくれるのは、とても大変であるということに気付かせなければならなかった。今回は、口頭でのやり取りだけになってしまったため、お世話を毎日続けることの大変さが児童の頭に残らなかった。今後は、価値に関わるキーワードとして、板書に残しておきたいと思う。

本授業の展開としては、教材から見出した「感謝」という道徳的価値を実生活に見出すことを１つの目的としている。そのため、子どもたちの中からそれぞれの経験を引き出すような言語活動を設定した。また、ワークシートでも実生活のことに関連した記述をする活動を設けた。

子ども同士の交流では、挙手して発言し、それを子どもたちが聞き合うことで、多様な考えに触れ自分の考えの幅を広げることをねらいとした。また、友達が書いた記述を互いに読み合うことでも多様な意見に触れる場を設定した。研究協議会では、交流を苦手としている児童への有効な手立ての一つとして、交流ができている児童を育てることが重要であるという助言をいただいた。また、ワークシートには、文字だけでなく心情円に色をぬる、表情図を描く、心のものさしに丸を付けるなど、言葉だけに頼らない手立てをとることにも留意したい。

３　その他の教育活動との関わり

道徳性というものは人間性と言える。学習指導要領の特別な教科道徳の目標には「自己の生き方についての考えを深める学習」と記されている。道徳科の授業を通して、家族以外の人への感謝の気持ちを持ち、考えを深めるためには、コラボ道徳として生活科等の他の教科の学びと結びつけることが大事であるとアドバイスをいただいた。生活科の町探検や給食センターの先生方への感謝の手紙などを通して、感謝の気持ちを広げる実践の場につなげた。

第４学年　　道徳科学習指導案

令和３年　１０月　６日
児童数　　２７名
指導者　　溝上　順平

１　**主題名**　　誰に対しても公平に　【C－(12)公正、公平、社会正義】

２　**資料名**　　「となりのせき」（出典：「新しいどうとく」東京書籍）

３　**主題設定の理由**

○　ねらいとする価値について

本主題は、「C主として集団や社会との関わりに関すること」の指導事項「(12)公正，公平，社会正義」に関わる。

公正，公平とは，自分の好みや都合だけで相手に不公平な態度を取らず，誰に対しても分け隔てをしないで接することである。中学年では仲の良い友達が確立されていき，次第にグループが出来始める年頃であり，仲の良い友達とそうでない友達で態度を変えてしまう児童も少なくない。集団生活では，誰に対しても公正に公平な態度で接することが人間関係を円満なものとし，いじめ問題などを防止することを理解できるようにしたい。

○児童生徒の実態について

本学級の児童は，普段の生活において，自分の好みや利害から不公平な行動・言動をしてはいけないことは理解している。しかし，実生活でそのような場面に直面すると，公正・公平にすることはなかなか難しく，自分の思いを優先して，相手に不公平な態度を取ってしまう実態がある。事前アンケートにおいて，「今まで，人によって態度をかえてしまったことがあるか。」という問いに対して「ある」と回答した児童は４８％と約半数であった。これまでの行動・言動を見つめ直し，公正・公平について考え，誰に対しても分け隔てのない心をもつことが必要である。

○資料について

本教材は，学級の席替えで，苦手だと思っていた友達と席が隣になった主人公が，相手に対して不公平な態度を取ってしまうが，やがて相手への理解を深めながら，自分の取った態度が正しくなかったことに気づいていく。

主人公ももが相手たけしへの理解を重ねる過程を共感的に捉えたり，母の言葉の意味を考えたりすることを通して，公正，公平の価値に気づき，ねらいに迫るようにしたい。

友人みち子さんたちのたけしについての情報，そして母の投げかけた言葉の２つをポイントに発問を構成し，段階的に気持ちや価値を高めていきたい。

○指導について

導入では，アンケートを用いてこれまでの自分たちの言動に目を向けさせ，分け隔てなく接することができていない状況があることに問題意識をもたせる。展開では，中心発問に向かうにつれて，価値や主人公の気持ちの高まりを黒板に図化することによって段階的に気付かせ，「良い人だから公平に接する」ではなく，「どんな人であっても分け隔てなく接する」という考え方へ導きたい。終末では，展開までの話を自分事として捉え，これまでの生活を振り返らせた上で，これから友達とかかわる時にどう接していくべきかを考えさせたい。また，誰とでも分け隔てなく接するという，人権尊重の視点に立って指導していきたい。

4　本時のねらい

主人公の母が求める公平な態度について考え話し合うことで，公正，公平の大切さに気付き，誰に対しても分け隔てをせず，公平，公正な態度で接しようとする心情を育てる。

5　学習指導過程

	学習活動	主な発問（〇）と 予想される反応（・）	指導上の留意点 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1　「公平」について考える。	〇事前アンケートの結果を見てみましょう。	〇事前アンケートの結果をまとめたものを提示し，公平に接することができなかった経験があることを知らせる。
	2　「となりのせき」を読んで話し合う。		〇ももさんのたけしさんに対する言動を整理させる。
	（1）たけしさんに対するももさんの言動の理由を考える。	〇ももさんはなぜたけしさんのとなりがいやだったのだろう。 ・みちこさんの隣がよかった。 ・たけしさんが苦手だった。	〇様々な意見を出させるために、ウェビング形式で主人公の気持ちを書かせる。 〇周囲の感じ方についても目を向けさせる。 〇黒板を図に見立て，公平・不公平の度合いを主人公の絵を貼り表す。
	（2）みちこさんの話を聞いたももさんの気持ちを考える。	〇みちこさんの話を聞いたももさんはどんなことを思っただろう。 ・決めつけてしまっていた。 ・良い人だったのにあんな態度を取ってしまってごめんなさい。	〇相手のことをよく知らずに悪い態度を取ってしまったことへの後悔の気持ちに気付かせる。 〇（1）同様に絵を貼り，主人公の考えの変化に気付かせる。
あくしゅタイム	3　母が言った「もっとだいじなこと」について考え，交流する。	◎お母さんが言った「もっとだいじなこと」とはどんなことだと思いますか。 ・自分の好みや都合で相手を見ない。 ・分け隔てをせず，接しなければいけない。	〇（1）（2）同様に絵を貼り主人公の気持ちの高まりに注目させ，誰であっても公平に接しなければいけないことに気付かせる。 〇ペアで交流した後に移動して交流をさせる。 公平に接することの大切さについて気付き，理解している。
／終末	4　本時のまとめをする。	〇今日の学習を振り返って、クラスの友達とかかわる時に，あなたはどんなことに気を付けたいですか？ ・みんな同じように接する。	〇今までの自分を振り返り，これからの友達との関わり方について考えさせる。 誰に対しても分け隔てせずに公正，公平な態度で接しようという意欲をもっている。
	5　教師の話を聞く。	〇「己に克ちて礼に復るを仁と為す」という論語を紹介します。	〇公平に関連した論語を紹介し，価値を温めさせる。

6　評価

公正，公平の大切さに気付き，誰に対しても分け隔てをせずに公正，公平な態度で接しようという意欲をもっているか。（発言・ワークシート）

道徳授業の振り返りについて
授業参観カードと授業づくりの視点を参考に授業を振り返り記録を残す
授業者　溝上順平　　内容項目【C-(12)公平、公正、社会正義】　　教材名「となりのせき」

1　本時のねらい、主題についてとその理由

本時のねらいを「主人公の母が求める公平な態度について考え話し合うことで、公平、公正の大切さに気付き、誰に対しても分け隔てをせず、公平、公正な態度で接しようとする心情を育てる。」とした。その理由は、本学級の児童が、自分の好みや利害から友達に不公平な態度をとってしまうという実態があったからである。どんな相手であっても公平、公正に接することは、よりよい人間関係を築いていくためには大切なことである。

主題は「誰に対しても公平に」とした。教材は、学級の席替えで、苦手だと思っていた友達と席が隣になった主人公が、相手に対して不公平な態度を取ってしまうが、相手に良いところがあることを知り、自分の取った態度が正しくなかったことに気づいていく。そこで主人公の母から、いいところを知らなかったり、自分が苦手だったりしたら不公平な言動をとってもいいのかとたずねられるという流れである。この母が求める答えが公平、公正の核心であると捉え、主題を「誰に対しても公平に」

2　本時の学習指導過程について（導入、展開、終末の工夫、特に、あくしゅタイムについて）

導入では、教材について児童が考えやすいように、公平・不公平という言葉の意味を抑えた。また、公平に接することができなかった経験についての事前アンケートの結果を提示することで、クラスの実態の把握し、ねらう価値と本時の内容について関心をもたせることができた。

展開では、主人公の心情を考える際に、箇条書きではなくウェビング形式でワークシートに記入させることで、多くの意見をだすことができた。また、それぞれの場面における主人公の言動について、公平か不公平かを判断させ、黒板に構造的に示すことで、主人公の気持ちの高まりを段階的に考えさせることができた。中心発問では、「お母さんが言ったもっと大事なこととはどんなことですか。」と問い、本当の公平な態度について考えさせた。しかし、発問の意味を捉えられている児童が少なかった上に、出された意見を深めることができなかった。児童が考えやすい発問をすること、切り返しの発問を増やし、考えを深めて広げることが課題である。

あくしゅタイムでは、意見の交流を促すために、ワークシートにサインの欄を準備した。友達にサインを書いてもらおうと、普段より活発に交流を行っていた。ただ、お互いに意見を言い合う児童がほとんどで、考えの深まりにはつながっていないように感じた。

終末では、本校の取り組みである論語に注目し、本時のねらいに関連する論語を紹介した。普段の学習と道徳を自然に結びつけることができ、価値の温めることができた。

3　その他の教育活動との関わり

「公平、公正」は、友達と接することが多い学校生活において重要な項目である。学校生活、学習活動、学校行事等において、人と接することは欠かせないことであるため、日頃から指導していくことで、道徳教育の充実につながると考える。

第５学年　　道徳学科習指導案

令和　３年１１月１９日
児童数　　３２名
指導者　　江口　洋平

１　主題名　郷土を愛する　【C－(17)　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度　】

２　教材名　「親から子へ、そして孫へと」（出典：東京書籍）

３　主題設定の理由

○ねらいとする価値について

我が国には、我々日本人が誇るべき伝統や文化というものが数多く存在する。郷土の伝統と文化は、地域ごとに独自なものを生み出し、郷土の誇りとなってきた。親から子へ、そして孫へと受け継がれていく大切なものとは、伝統と文化とともに、それらを支える郷土への愛や誇りであることを理解できるようにしたい。また、我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられるようになることから、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を養いたい。

○児童生徒の実態について

本学級の児童に「多久に昔からあるもの・伝えられてきたもので、知っているものはありますか」と尋ねたところ、95%以上の児童が「腰鼓」と答えた。総合「地域の伝統を受け継ごう」というテーマで、多久聖廟の腰鼓について学習をしており、実際に地域のお祭りに参加している。しかし、郷土の風土や歴史を築きあげてきた先人の苦労や業績を知り、その人々の郷土を思う心を共感的に理解している児童は極めて少ない。このことは、既習の学習が知識・理解に重点がおかれ、郷土のよさやすばらしさが児童の心の中に浸透していないことを意味し、郷土愛を十分はぐくむまでには至ってないことと捉える。

○教材について

本教材は、主人公の健太が、３年生のときジョージ先生から町で自慢できるものを尋ねられて、すぐに「北山神楽」と答えたが、４年生になってその横笛の吹き手になると、練習の厳しさが嫌になる。

しかし、北山神楽の資料を見たり、清三じいさんの「これから生まれてくる人のもの」という言葉を聞いたり、友人の豊が前にいた町の祭りを見たりして、次第に、北山神楽への思いが深まってくる。伝統文化を受け継ごうと思うようになった理由を考えることで、地域の伝統文化を愛する態度を育てたい。

○指導について

まず導入の段階では、「自分の住んでいる土地に昔からあるものや伝えられてきたもの」を想起させ、誰が、どのような思いで、受け継がれてきたのかについて考える見通しをもたせる。展開では、まず資料を読み、主人公が横笛の練習を行っていた時の気持ちを考えさせる。さらに、その後、資料を見て、清三じいさんの話を聞いて、様々な人との関わりの中で主人公がどんな気持ちに変わっていったかを考えさせたい。

展開後段では、「主人公がどうして神楽を受けつごうと思うようになったのか」について理由を考えさせる。図を使って全体で交流することで、伝統や文化を受け継ごうとする思いについて、価値を深めさせたいと考える。

終末では、振り返りとともに、地域の伝統を受け継いでいた人の言葉を取り上げて、心に余韻を残させながら価値を温めさせたい。

4　本時のねらい

郷土に伝わる伝統と文化を愛し、受け継いでいこうとする態度を養う。

5学習指導過程

	学習活動	主な発問（〇）と 予想される反応（・）	指導上の留意点 期待される児童・生徒の変化（教師の願い）
導入／展開	1　地域の伝統や文化について思い出す。	〇　多久に昔からあるもの・伝えられてきたもので、知っているものはありますか。 ・釈菜　・腰鼓　・浮立　・山笠 〇　伝統は誰が受け継いでいるのですか。 ・多久の人　・地域の人	〇　あらかじめアンケートを集計しておく。また、その伝統や文化はどのように伝えられてきたのか、少し押さえておく。
	めあて　伝統や文化はどのような思いで受け継がれているのか		
	2　資料を読み、話し合う。 （1）横笛の練習を健太はどんな気持ちでしていたか考える。	〇　横笛の練習について、健太はどんな思いでいたのでしょうか。 ・仕方なくしている。 ・本当は遊びたい。	〇　資料の内容をおさえる。 〇　健太の神楽に向かう気持ちを考えさせる。 ・本当は遊びたいと思っている主人公の気持ちに共感させる。
	（2）清三じいさんの話を聞いた後の健太の気持ちを考える。	〇　資料を見たり、清三じいさんの話を聞いたりして、健太はどんな思いでいたのでしょうか。 ・伝統を受け継ぎたい。	〇　健太の神楽に向かう気持ちを考えさせる。 ・神楽に向かう気持ちが上がっていること、伝統を受け継ごうとしている気持ちに気づかせる。
あくしゅタイム	3　伝統や文化はどうして受け継がれてきたのか考える。	◎　健太はどうして神楽を受け継ごうと思うようになったのでしょうか。 ・伝統や文化のすばらしさに気づいたから。 ・伝統や文化が好きだから。 ・伝統や文化を受け継ぐのにたくさんの人が関わっているから。 ・責任があるから。	〇　伝統や文化を受け継ぐ理由について、考えさせる。 ・主人公が誰の思いに触れ、どのようなことを思っているのか、図にまとめながら考えさせる。
／終末	4　今日の学習で学んだこと、これからの生活に生かしたいことを考える。	〇　今日の授業で学んだことを振り返りながら、ワークシートに書きましょう。 ・伝統や文化は、たくさんの人の思いで受け継がれている。 ・多久市の伝統についても受け継いでいきたい。	地域の伝統・文化のよさや、伝統・文化を受け継ぐ人の思いについて感想を書いている。 〇　学んだこと、これからの生活に生かしたいことを書かせる。机間巡視して道徳的価値の理解が深まった感想を読ませる。
	5　地域の人の話を聞く。	〇　腰鼓について、地域の人の話を聞く。	

6　評価

地域の伝統や文化のよさや、伝統・文化を受け継ぐ人の思いについて感想を書いている。

授業者　江口洋平　内容項目【C-(17)伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】
教材名「親から子へ、そして孫へと」

1　本時のねらい、主題についてとその理由

本時のねらいを「郷土に伝わる伝統と文化を愛し、受け継いでいこうとする態度を養う」と設定した。なぜなら、受け継がれている伝統や文化を尊重することは、国や郷土を愛する心につながり、我が国をよりよくしていこうとする心構えを育てるために大切なことだと考えたからだ。

5 年生の児童は総合「地域の伝統を受け継ごう」というテーマで、多久聖廟の腰鼓について学習をしており、実際に地域のお祭りに参加している。しかし、郷土の風土や歴史を築きあげてきた先人の苦労や業績を知り、その人々の郷土を思う心を共感的に理解している児童は極めて少ない。このことは、郷土愛を十分はぐくむまでには至ってないことと捉えた。

主題は「郷土を愛する」と設定した。授業の導入と終末において、地域の伝統「腰鼓」について「どのように思っているのか」、また「これからどうしていきたいか」を問うことで、児童の道徳的心情の深まりを比較した。

2　本時の学習指導過程について（導入、展開、終末の工夫、特に、あくしゅタイムについて）

導入では、「多久に昔からあるもの・伝えられてきたもの」を聞くことで、児童は実際に参加したお祭りのことを思い出し、「めんどくさかった」や「きつかった」など自分の本音を表すことができた。

まずは主人公である健太が、周囲の人々との交流を通して、伝統を受けつごうとする気持ちが高まっている様子をおさえた。その上で中心発問は、「健太はどうして神楽を受け継ごうと思うようになったのでしょうか。」と問うた。ワークシートには「昔の人のため」「指導者のため」「友達がいるから」「これから生まれてくる人のため」といった意見が出てきた。あくしゅタイムでは友達と意見を交流することで、多様な考えに触れることができた。一方で、意見を伝え合うことだけで交流が終わってしまうため、意見を深めることができるようになることが課題であると感じた。「似ているところ、違うところを考えながら」や「分からないところは質問をしよう」など、話し合いの視点を持たせていきたい。

終末の振り返りでは、来年度に「腰鼓」向けてどのような気持ちでいるのか考え、実践への意欲を高めた。また、「伝統が受け継がれていることについて」郷土の先輩からのメッセージ動画を流し、伝統を受け継ぐことの大変さや、受け継がれていることの嬉しさを知り、価値を温めた。

3　その他の教育活動との関わり

他教科との関連では、総合「多久の伝統・腰鼓」において、伝統を受け継ぎ秋の釈菜では踊りを披露した。その後、今回の授業の中で「本当は面倒だと思っていたが、これからの人のためにも一生懸命がんばりたい。」といった意見が出てきており、今度は指導側になる来年度に向けて、実践への意欲を高めた。

第９学年　　道徳科学習指導案

令和３年１１月１９日
生徒数　　２９名
指導者　　御厨　亮佑

１　**主題名**　いのちを考える　【　D－（１９）　生命の尊さ　】

２　**教材名**　　「生まれてきてくれて、ありがとう―助産師からのメッセージ―」（出典：東京書籍）

３　**主題設定の理由**

○ねらいとする価値について

生命は、かけがえのない大切なものであって決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことはかけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れといえる。生命の尊さを知識として理解するだけでなく、生命が生まれてくることの重さ、親やそれを支える人たちの願いなどを考えさせ、理解を深めさせたい。

○生徒の実態について

昨今の生活様式の変化やインターネット等の普及によって、生徒が自然や他者と関わる機会が減少している。それに伴って、生活の中で生命の尊さについて深く考える場面も少なくなってきている。また、生命は大切なものだと頭の中ではわかっていても心身の発達の著しい時期であるがゆえ生命を軽視する言葉を口にする生徒も少なくない。だからこそ、自他の生命の大切さについて改めて認識させたい。

○教材について

本資料は助産師の立場から生命誕生への思いがつづられた教材である。助産師は母子の命を守る重圧を負う一方で、無事に誕生した折には大きな喜びと達成感が得られ、命に係わる深い経験を持っている。経験や思いに裏付けられた言葉や仕事への姿勢から、命に対する自身の在り方について深く考えさせたい。

本時では、出産という母子の命がけの共同作業を支える助産師のメッセージを通して、生命誕生の感動を共有し、生命誕生には多くの人が関わり、支えられているのだということを気付かせたい。

○指導について

指導にあたっては、導入で生命の誕生や出産の大変さなどを考えさせ、自分が今ここにいることの不思議、奇跡に気付かせたい。展開では、助産師が生命の誕生にどのような気持ちで備えているか、助産師さんの思いに触れる。その後、生命の誕生にはどれだけの人が関わり支えているか考える。中心発問で、周囲の人が自分の誕生をどのような気持ちで待っていたのか考え、友だちと意見を交流させる。そのことを通して、自他の生命の大切さを感じさせる。

４　本時のねらい

自分や他者が生まれてきたときの思いや、周囲の支えを知ることを通して、生命が尊いという心情を育てる。

５　学習指導過程

	学習活動	主な発問(○)と 予想される反応（・）	指導上の留意点
導入／展開	１出産ついて知る。 ２範読する。	○出産についてどのようなイメージをもっていますか。(事前アンケート) ・大変そう、きつそう ・子どもが生まれるからうれしい	○出産に関わる情報を提示し、自分が無事に生まれてきたのは奇跡なのだということを実感させる。
	３助産師の気持ちを考える。	○助産師は、どのような気持ちで赤ちゃんの誕生に備えているのだろうか。 ・無事に生まれてきてほしい ・命を守りたい	○助産師が出産に向けてどれだけ備えてきたのか、どのような気持ちで備えてきたのか表情マークを書かせ、考えさせる。
	４生命の誕生にはどのような人が関わっているか考える。	○生命の誕生にはどのような人が関わり、支えているだろうか。 ・お母さん、お父さん ・おばあちゃん、おじいちゃん	○助産師以外にどのような人が関わったり、支えてくれたりしているか考えさせる。身近な母や父などを例に出し、そこから広げさせる。 ○保護者アンケートを紹介し、みんなの親は、どのような人たちに支えられたのか紹介する。
あくしゅタイム	５周囲の人の気持ちを考える。	◎周りの人は、どのような気持ちであなたの誕生を待っていたのだろうか。 ・無事に生まれてほしい ・元気に育ってほしい	○４で出された人物の中から一人選ばせ、その人物の気持ちを考えさせる。 ○個人で考えさせた後、ネームプレートを黒板に貼らせ、意見交流させる。
	６アンケートの紹介。	○親の気持ちを知ってあなたはどのように感じましたか。	○保護者アンケートを紹介し、実際に生徒の親がどのような気持ちでいたのかを紹介する。 ○他者も大事にしないといけない、という部分をおさえる。
終末	７本時の学習を振り返る		

６　評価

出産の大変さや、支えてくれる人たちの気持ちを考えたり、友だちとの意見交流をしたりすることで、命のありがたさや大切さについて深く考えている。（ワークシート、観察）

道徳授業の振り返りについて

授業者　御厨亮佑　内容項目【D－（１９）命の尊さ】

教材名「生まれてきてくれて、ありがとう―助産師からのメッセージ―」

１　本時のねらい、主題についてとその理由

本時のねらいを「自分や他者が生れてきたときの周囲の思いや支えを知ることを通して、生命が尊いという心情を育てる」とした。生命は、かけがえのない大切なものであって決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことはかけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れといえる。生命の尊さを知識として理解するだけでなく、生命が生まれてくることの重さ、親やそれを支える人たちの願いなどを考えさせ、理解を深めさせたい。昨今の生活様式の変化やインターネット等の普及によって、生徒が自然や他者と関わる機会が減少している。それに伴って、生活の中で生命の尊さについて深く考える場面も少なくなってきている。本時では、出産という母子の命がけの共同作業を支える助産師のメッセージを通して、生命誕生の感動を共有し、生命誕生には多くの人が関わり、支えられているのだということを気付かせたい。

２　本時の学習指導過程について（導入、展開、終末の工夫、特にあくしゅタイムについて）

導入では、自分が無事に産まれてきたことは奇跡なのだということを実感させるために、流産や死産、不妊の確率を紹介した。展開ではまず、助産師が出産に向けてどのような気持ちで備えているか、表情図で助産師の気持ちを表し、その後、生命の誕生にはどのような人が関わっているのかを考えさせ、中心発問へつなげた。また、事前にとった保護者アンケートをもとに、生徒たちの親が実際にどのような人に支えられたかを紹介し、生徒から出なかった人物も取り上げた。あくしゅタイムでは展開で考えさせた自分の誕生に関わっている人から一人選ばせ、その人はどのような気持ちで自分の誕生を待っていたのかを考えさせた。個人で考えさせた後、意見交流させ、選んだ人や立場によって気持ちが同じなのか、違うのか、なぜなのかを考えさせた。自分たちで考えた後に、保護者アンケートをもとに実際に生徒の親の気持ちやメッセージを紹介し、最後に、「命はなぜ尊いのか」を考えさせた。「多くの人が関わって誕生したから」「自分だけのものではないから」など自分の命が大切だということは分かっていたが「自分が大切にされたように他者も大切にしないといけない」のように他者に目を向ける生徒は限られていたので、他者の命に目を向けるための工夫が必要だと感じた。

３　その他の教育活動との関わり

生活様式の変化やインターネット等の普及によって、生活の中で生命の尊さについて深く考える場面も少なくなってきているため、自己の生命に対するありがたみを十分に感じることができていない生徒もいる。道徳の時間だけでなく、自他の生命を尊重する態度を身につけさせなければならない。

MEMO